

議論の整理

1. 本分科会の使命

大学教育の（分野別）質保証の在り方を、大学と職業との接続という面から検討すること。
（→大学教育への提言、政府や社会への提言）

2. 大学と職業との接続をめぐる問題状況

①大学教育と職業との関わりについての共通理解の不在

（産業界からの、大学教育に対する（時に過剰もしくは不適切な）要請の高まりと、実際の採用活動における軽視（特に「文系就職」の場合）→表層的な就活対策や安易な資格取得主義）

※ （学士課程における）大学教育の職業的意義とは何か。

汎用的に役立つ力なのか、より専門に特化した力なのか、それとも両者は必ずしも相反するものではないのか。

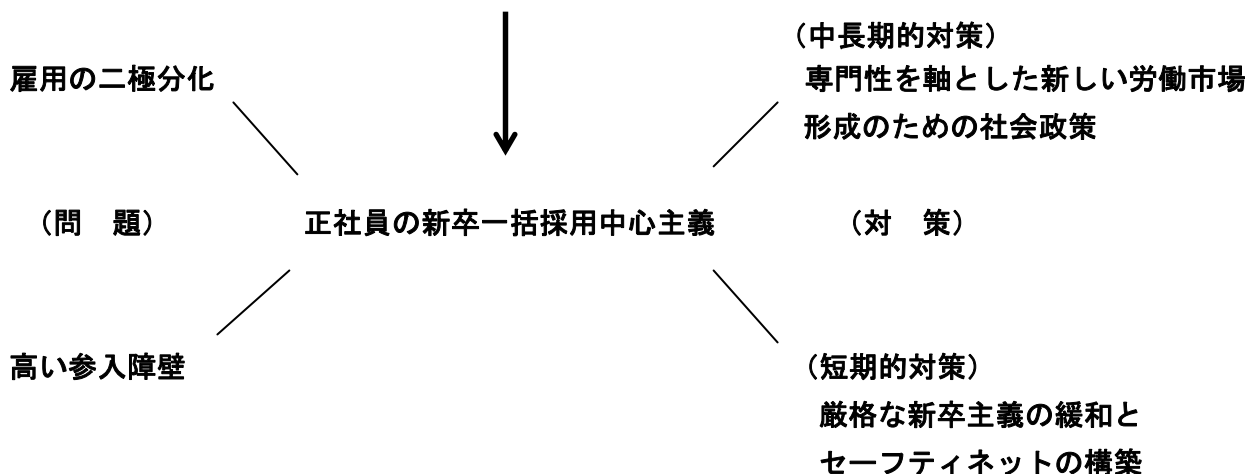
②就職自体の困難さと、それに起因する学生生活に対する「就活」の圧迫への対応

※ ①と②とはどう関係するのか。

※ ②について、問題状況の構造を以下のように理解することは正しいか。

問題状況の構造

- ・ 良質な雇用機会の縮小（グローバル経済の下での競争圧力）
- ・ 高等教育のマス化（学生人口の増大。ただし今後は急速に減少）



※ 雇用が二極分化し良質な雇用機会が縮小してゆくという現在の社会を不可避と考えるのか、新しい社会の構築を目指して政策として良質な雇用機会の創出を図っていくという立場を採るのか。

※ 後者の立場を採るとして、そのための中長期的対策として、専門性を軸とした新しい労働市場を形成していくことは妥当であるのか。

※ 新しい労働市場に対応した大学教育の在り方は、現在の労働市場を前提とした場合の大学教育（望ましい大学教育という意味であり、現に存在する大学教育という意味ではない）と異なるのか。